



私たちは緊急出動ゼロを目指しています！

事業方針：丁寧な・熱心な作業も技術の一つです！

世界の生ゴミ処理事情は……、dsp設置の可否は……？



ディスポーザーは1927年米国で発明され、1950年代に本格的な利用が始まりました。合流式浄化センターを抱えるニューヨークは、1997年にディスポーザー使用禁止が解除され、全米での使用許可となっています。現在の普及率は60%とされています。米国でdspは200ドル程度で、DIYで簡単に交換できる商品です。



自治体により、ディスポーザーに関しての規制は異なりますが、①下水システムの機能を損なうかもしれない物質の、排出を禁止する。②ディスポーザー排水の下水道接続禁止する。に大別されており、ディスポーザーの使用は禁止となっています。ドイツの生ゴミはコンポスト・リサイクルです。



トロント市では条例により、分流式区域内の家庭用ディスポーザーに限り設置を認めています。なお、合流式区域及び業務用ディスポーザーの設置は認めていません。



スウェーデンでは、これまでディスポーザーの使用を規制してきましたが、現在は下水道施設の消化能力に余力があり、分流式のスラムハン市は、下水道接続世帯の40%にディスポーザーを設置し、下水道への影響調査を始めました。なお、合流式地域では、汚泥のメタン発酵プロジェクトを実施しています。



中国におけるディスポーザーの普及に関する情報は、抄録しありませんが、人民網・日本版によると、上海市では、ディスポーザーの取り付け作業員が不足するほど、ディスポーザーの需要が高まっているようです。

また、天猫の統計データによると、残飯や鳥の骨などを細かく粉碎し直接下水道に排出するというディスポーザーは、ここ1週間で363%増加したとあります。



韓国メディアSBSによると、最近台所の便利装置として販売が急増していたディスポーザーは、販売を禁止する法案が推進されていると報じられています。なお、ディスポーザー販売禁止及び下水法の改正案が、発議されています。



dspの普及はCo2削減に貢献します！

1950年代 dspの米国からの輸入が開始する

1980年代 国内でdsp単体設置台数が30万台を超える

1990年代 全国自治体で単体設置の自粛禁止措置

1998年 dspシステムの国内第1号が誕生

2022年 dspシステム設置台数は80万台をこえる

日本の普及率は3%未満。一方1990年北海道歌登町を皮切りに始まった、処理槽なしdsp単体設置実験は、下水道の影響は少なく単体設置を認める自治体が緩やかながら始まっています。日本におけるdsp普及速度は、この単体設置に掛かっているようです。

水物語 No 122

実現近し、画期的な太陽光発電です！



ペロブスカイト太陽光電池とは、いったいどんなものなのか？

フィルムに「ペロブスカイト」と呼ばれる結晶の構造をした物質を塗ることで、太陽光を電気に変えることができるそうです。

桐蔭横浜大学の宮坂力特任教授が発見した日本の技術です。従来の太陽光パネルに比べて厚さは100分の1、重さは10分の1と、薄くて軽いのが特徴です。

更に、フィルム状で柔軟性に優れているため、折り曲げて設置することが可能です。これまで重さがネックとなって設置できなかった、ビルの壁面や建物の屋上、更に局面の部分にも貼り付けが可能です。ペロブスカイト太陽電池を導入できれば、設置場所が飛躍的に増大します。政府はまず、オフィスビルの壁面や駅、公共施設での活用を進め、将来的には各家庭の利用も視野に入れているそうです。

ペロブスカイトの主原料はヨウ素。日本はチリに次ぐ世界2位の生産国です。日本の国土の地下には、ヨウ素を含んだ地下水があり、ここからヨウ素を取り出しています。つまり原料を国内で調達できるという画期的なことです。これまでのところ、屋外の環境で10年程度は発電できることが確認されています。

特許

油脂ゼロポンプ槽推進中！

dsp・HVシステム槽推進中！ 株式会社クリーンテックサービス東京